

中国と日本企業の関わりの歴史

第一次進出期
(1979～1989)

第二次進出期
(1992～1996)

第三次進出期
(1999～2004)

第四次進出期
(2004～)

委託加工中心
(労働集約型製品)

世界の工場化
(高付加価値製品)

WTO効果に伴う
世界の市場化

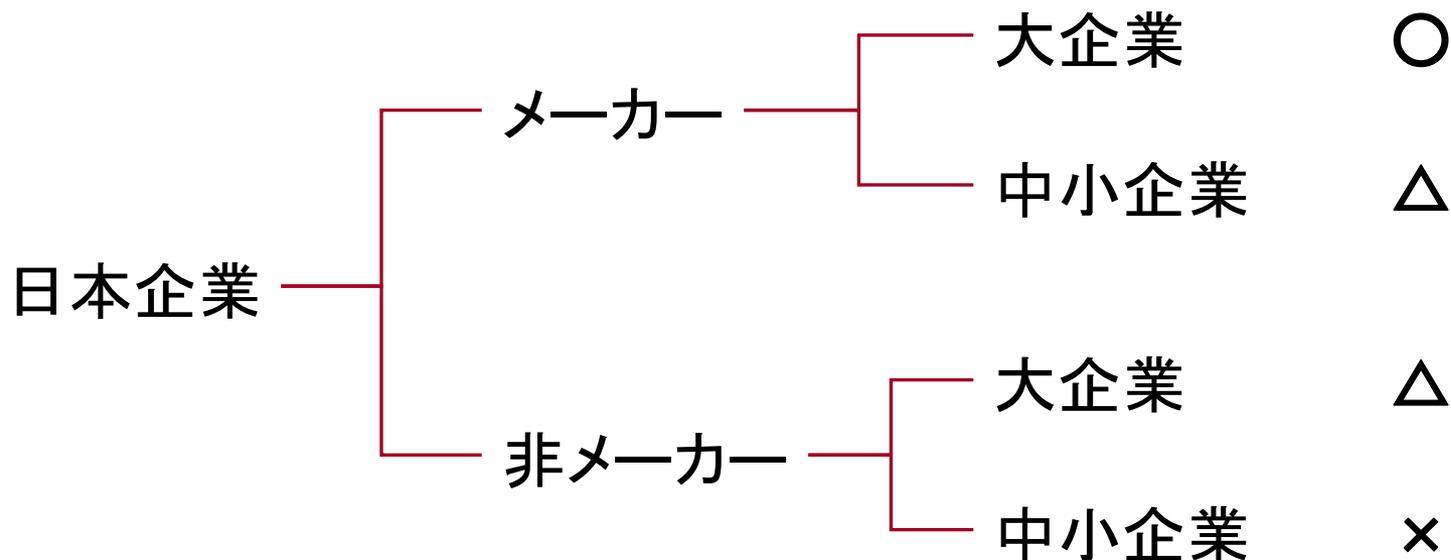
WTO加盟後3年
経過による各種
サービス貿易開放

適切な出願を
期待するのが
難しい時代

適切な出願に
向けた大転換期
(メーカー)

サービス貿易
企業の無知に
基づく出願懈怠
の時代

日本企業の「適切な出願」をめぐる現在の状況



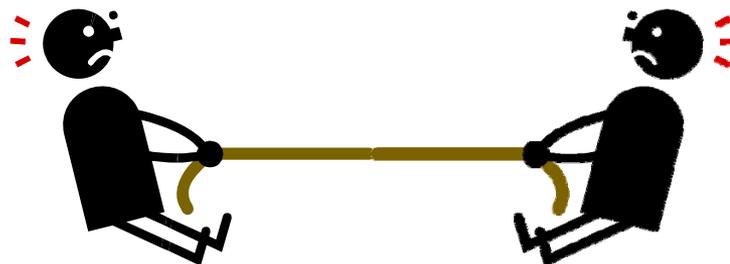
最近の傾向として留意すべき点

「適切な出願」で防止不能な類型の登場

特許権出願明細書の誤訳問題

翻訳の正確性への要求

高いレベルの
翻訳人員不足による
コスト高問題



知的財産権対策全体のイメージ

政府行政機関＋調査会社の利用

圧倒的多数

役割分担

人民法院の利用

初動調査のポイント

保全＋訴訟

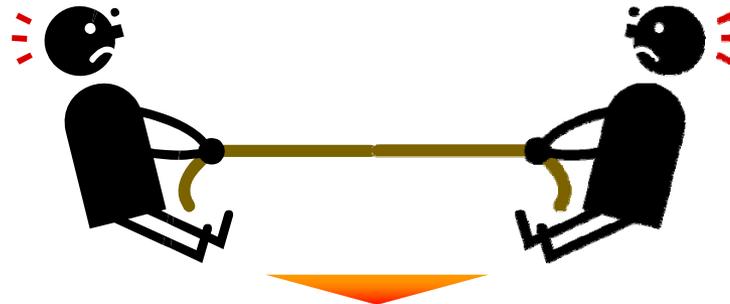
- ① 弁護士事務所の選定
（日中弁護士役割分担）
- ② 「敵を知る」
－ 工商調査の実施と意義
- ③ 保全実施の要否確認、体制構築、
スケジュール立案

↑
人民法院で実施する合理性が
真に認められるケースのみ

新たな知的財産権対策 —ライセンス新時代と今後の対応

中国企業に対する
技術ライセンス急増の兆し

人民法院に対する不信と不安
(反日デモ等の影響も)



仲裁利用例の増加

新たな悩み

どこの仲裁機関がベスト？